

太宰府天満宮の祭りと儀式

祭りは日本の文化に深く根付いており、多くは日本の寺院や神社と関係があります。太宰府天満宮では、毎年 100 を超える祭りや神事が行われており、多くの人々がこの行事に参加しています。

神幸式－菅原道真の大名行列は神社にまつわる最大の儀式で、1853 年のこの巻物に描かれています。菅原道真の霊 (天神としても知られる) が太宰府にある道真の旧家、榎社で一夜を過ごすために、大きな持ち運びできる神社である神輿に担がれ運ばれます。翌朝、神は太宰府天満宮に戻されます。この行事の間、何百人もの人々が平安時代(794~1185 年)の衣装を着て、その神輿が境内を巡行するときに付き添います。

一月上旬の鶯替え(鶯の交換の祭り)はもう一つの有名な行事です。停止の合図があるまで、暗闇の中で押し合う群衆が木彫りの鶯を交換します。木うその底の文字によって、純金のウソと交換でき、来年の幸運を約束されていると言われていいます。太宰府天満宮では新年は、100 万人を超える人々が祈りをささげ、その年のお守りを手に入れるために訪れるため、忙しい時期です。